

## 平成30年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成31年2月6日(水) 14:00～15:30
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー  
千葉代表、貞廣副代表、横溝委員、岡田委員(欠席)、桑原委員(欠席)、松下委員、宮崎委員(欠席)、中川委員、徳榊委員、宮澤委員、加藤委員、三浦委員

### 事務局

釜田(有隣堂本部/欠席)  
古川館長、味元(山内図書館)  
小島、村田(三洋装備)

### 4. 案 件

- (1) 平成29年度の運営評価
- (2) 平成30年度の新規取組と平成31年度の取組予定
- (3) 山内図書館の運営についての自由討議
  - 利用者参加型の避難訓練について
  - 利用者参加型で行う積み木箱を使った展示方法について
  - 家庭で眠っている地域デジタル資料の収集方法について
  - その他

### 5. 概要

- (1) 平成29年度の運営評価(古川館長)

平成29年度は横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会による管理業務評価の年度に当たっており、12月に評価が決定した。例年だと、この時期には報告書がまとまっており配布することができるが、本年は報告書は3月発行予定のため、口頭で報告を行う。

「Ⅰ図書館の運営」「Ⅱ施設・設備の維持管理」「Ⅲ緊急時の対応」「Ⅳ組織運営及び体制」の4つの側面において、評価できる点、改善を要する点が挙げられた。評価できると点としては、「Ⅰ図書館運営の基幹的な図書館サービス」では、地元の高校生との協働によるティーンズコーナーの拡充、グループ貸出登録団体が増加していることによるグループ貸出冊数の増加、商用データベースや国立国会図書館デジタル送信サービスの活用によるレファレンス件数の増加、座席予約システムの導入による公平・公正な閲覧席の管理が評価された。一方、改善を要する点として、入館者数、貸出冊数などの基本的な利

用者サービスを測る指標について、数値が減少傾向にあること、団体貸出の貸出冊数が減少しており、高齢者福祉施設など地域でサービスを必要としている団体を掘り起してはどうかとの提言があった。

平成29年度の管理業務評価報告書は、後日、横浜市図書館と山内図書館のホームページに掲載予定。

## (2) 平成30年度の新規取組と平成31年度の取組予定

### 平成30年度の新規取組

#### ①読み聞かせボランティア・修理ボランティアの育成

講座を開催しボランティアを育成、講座終了後は山内図書館のボランティアとして活動いただいている。

#### ②あおばティーンズカフェの開催

読書推進活動の一環として、青葉区役所こども家庭支援課と共催で中高生を対象に3回開催。

##### ・記者に挑戦しよう

青葉区的女子サッカーチーム日体大 FIELDS 横浜を取材、壁新聞にまとめる。

##### ・Life with Reading 読書の新しい楽しみ方

27のキーワードを記したカードを基に、本や読書の楽しみ方についてディスカッションを行う。

##### ・小説を書くということ

作家の二宮敦人氏を迎え、小説家になるまでの道のりについてお話いただく。

#### ③初めての取組として、英語のお話会を開催

#### ④人形劇コロントの公演

⑤集会室のリニューアル（壁、床の貼り換え）、名称も平成31年4月から「やまちゃんおはなしの部屋」に変更予定。

### 平成31年度の取組予定

#### ①夏、恒例のおはなし祭りの開催 7月30、31日を予定

②図書取次事業の継続 区内7か所での取次拠点での貸出は右肩上がり推移。

#### ③牛込の獅子舞の講座の開催

④学校連携事業においては、Life with Reading、ビブリオバトルを軸に学校に出向き、読書活動推進の支援に努める。

#### ⑤有料宅配サービスの継続

⑥キャラクターの活用 これまでとは違う手法でやまちゃんを積極的に活用することを検討している。

### 平成31年度の事業骨子

上記の取組を含め、平成31年度の事業骨子を山内図書館ホームページに掲載予定。

- ①現在、地域ケアプラザが読書推進活動も含めて、事業活動に熱心である。連携して一緒に事業を行いたと考えている。
- ②青葉区内の読書に関するイベント情報をまとめた読書のイベントカレンダーを毎月発行しているが、継続して発行していく。
- ③施設の環境整備として、夜間、玄関周りが暗く、開館していることが分かりにくいので、玄関周りを明るくするよう改善に取り組む。
- ④防犯の強化 入口、児童コーナー等に防犯カメラの設置を検討する。
- ⑤郷土資料のデジタル化を進め、郷土資料の保存に努めるとともに、利用者に提供していきたい。8ミリビデオなど記録されているものをDVD化する。また、冊子体の資料を電子書籍化し、全文の公開が難しければ一部でもホームページで閲覧できるようにしていきたい。
- ⑥障害者支援への取組 これまでは主に視覚障害者に向けての対面朗読に取り組んできたが、本年度は知的障害者支援に重点を置く。LLブック、手で触れる視覚図書や周りの人間が障害を理解するための図書を重点的に収集する。コミュニケーションツールとして、iPad用のアプリなども購入し、障害のある方が来館されたときに円滑にコミュニケーションが図れるように環境整備を進めたいと考えている。
- ⑦職員、アルバイトを対象にスキルアップを図るための研修を引き続き行う。

### <委員からの意見>

・障害者支援向けのLLブックとはどういうものか。

図) 障害のある人が理解しやすいように、優しく書かれたもの。児童を対象にしたものではなく、読み書きに障害がある人を対象につくられた本である。

・LLブックはどのくらい持っているのか。

図) 山内図書館では現在、所蔵していないので、購入を進めたいと考えている。

・アートフォーラムには障害者理解の本をたくさん所蔵している。連携をすすめてはどうだろうか。

・大活字本であるが、数が少なく、また最近の本が少ないように思われる。

図) 毎年、コンスタントに購入しているが、最近のものは予約で動いていて、書架に戻らないことが多い。

・デジタルデータの収集は具体的にはどういうふうに進めていこうと考えているか。

図) 青葉区内で撮影されたもの、風景や伝統行事、開発の様子などの映像を持っている方を何らかの形で募って、映像を提供してもらいたいと考えている。

・若いころ8ミリをやっていたので、昭和40～50年代、青葉区を撮影したものは持っている。私的な部分もあるので、公のものとしてどのくらい使えるかは不明。フィルムの状態についても再生可能か懸念がある。

図) 牛込、鉄の獅子舞はあおばみんさんが製作されてDVDがあり、貸出ができるのでよく利用されている。その他の、お祭りの映像なども、昔のものに限らず、現在の様子を撮影して残していてもよいのではないだろうか。

・お祭りも変わってきている。保木の薬師堂は薬師如来坐像が9月11日に県立歴史博物館から帰ってきて、お祭りが行なわれているが簡略化されている。以前は檀家の人が一晩中ついていたが、泊まることがなくなっている。

・鉄の古典獅子舞も80歳代の人を中心なので存続が危ぶまれる。取材して残しておく必要があるのではないか。趣味で撮影している人も多いので、そういう人に地域情報誌やSNSを通して呼びかけると、いろんなジャンルのものが集まるのではないだろうか。

・地域の映像を趣味で撮影している方は、年齢の高い方が多いので、紙媒体とSNSの両方で呼びかけるのが効果的と思われる。

・ロータリークラブとか、老人会などに呼びかけるのもよいかもしれない。

・美しが丘小学校などは現在通っているのは3代目のお子さんという家庭も多いので、古くからある小学校(元石川、山内、鉄)などに呼び掛けてもよいかもしれない。

・募集をかけて待っているだけでは無理だと思うので、プロジェクトをつくって、チームで動いたほうがよい。できれば歴史に詳しい人にも参加してもらい、地域別、歴史別に分類分けしながら収集しないと、アーカイブをつくって活用するまで持つていくのは難しいと思われる。まずはプロジェクトメンバーの募集が必要ではないか。そして、映像募集のチラシをつくり、図書館で配布するほか、自治会などに働きかけ回覧板などで回してもらうなどするとよいかもしれない。

・古い郷土資料、古文書なども図書館で収集しているのか。

図) 山内図書館では古文書の収集は行っていないが、古文書を読み解いた本の収集は行っ

ている。

・写真の歴史的価値が分かる人にメンバーに入ってもらえるとよい。そうでないと、歴史的に価値のあるものとそうでないもの見分けが難しくないだろうか。青葉区には大学も多いので、協力してもらうのもよいかもかもしれない。

・研究者は地元の古文書に興味を持つ人が多い。

・地域ケアプラザと連携して読書活動の推進を図るということだが、具体的なプランはあるのか。

図) 現在、進行しているのは、すすき野地域ケアプラザが行う「～テーマは歴史～ 学んで・歩いて・語ろう！」という3回講座の支援。この講座に関連した本はどのようなものを用意したらよいかとの相談を受け、本の選定にあたった。

<山内図書館の運営についての自由討議>

●利用者参加型の避難訓練について

図) 選定評価委員会から避難訓練を利用者ともに行ってはどうかという提言をいただいた。防災に関する講座を開き、その中で避難訓練を行いたいと考えているが、利用者と共に行う避難訓練について、アイデアがあれば教えて欲しい。

・今まで、避難訓練は行っているのか。

図) 利用者に参加いただいた訓練は行っていない。職員研修としては、山内地区センターと合同で消防署の方に来ていただいて、年度ごとに避難誘導訓練と消火訓練、AEDの使い方の講習を行っている。

・日中は、どのくらい利用者がいるのか。

図) 平日の昼間、館内にいる人は常時200~300人くらいだろうか。

・個人、個人、いろいろな目的があって利用しているので、避難訓練に参加といっても協力は得られにくいのではないか。パニックになる恐れもある。図書館の職員がしっかり訓練をしていけばよいのではないだろうか。利用者は指示に従うのではないだろうか。

・職員の役割分担をはっきりさせ、避難誘導、トイレなどに取り残された人がいないかを確認する手順を普段から確認するようにしておいてはどうだろうか。

●利用者参加型で行う「積み木箱」を使った展示方法について

図) 「積み木箱」とは、持ち運びができる昔のリンゴ箱のような木製の本棚のことで、幾つ

かを組み合わせて使うこともできる。この本棚を使い、館内随所で本を紹介していきたい。40周年のときに行った「わたしの1冊」というのが好評であったので、この本棚を利用して、「わたしのひと箱」というような形で、その人がお薦めする本を紹介したいと考えている。箱を使って本を紹介してくれる人を募集するのは違和感があるので、この本棚の活用アイデアがあれば教えて欲しい。

- ・何冊くらい入る箱なのか。

図) ひと箱に20冊くらい入る。

- ・最近、どこでも図書館というのをよく行っているが、イベントを企画してその一環として活用してはどうだろうか。イベントの成果を展示してもよいかもしれない。

●家庭で眠っている地域デジタル資料の収集方法について

図) 地域デジタルを収集する方法についてアイデアをいただきたい。

- ・チラシなど呼びかけていくのがよいのではないだろうか

- ・チラシやタウン紙、web など、協力してもらえるところは、全部協力してもらおうとよい。

- ・5年後に青葉区政30周年を迎えるので、それとからめて準備を始めるとよいのではないかな。注目度も上がるし、区役所の協力も仰げるのではないだろうか。

●その他

- ・伊東潤氏（作家）の講演会を企画して欲しい。横浜市出身の作家で、小田原北条氏から始まって神奈川の歴史について書いている。面白い講演会になるのではないだろうか。

配付資料:会議次第